

100%源泉掛け流しの温泉に恵まれた岐阜、高山荘川の  
ホテル『龍リゾート&スパ』、多くのリピーター、集う

株式会社オハヨーサン（代表取締役）**金森英樹**



# 『ヴィラージュ 荘川高原』の開業から四十数年 温泉湧出を機に『龍リゾート&スパ』へ、リニューアル スイートコテージ『リゾートヴィラ高山』も人気に

## 買い取ったリゾートマンションで、 リゾートホテル開業

勤務先の名古屋の不動産会社がオ  
イルシヨック不況の影響もあって業  
績不振に陥り、ついには廃業へと追い  
込まれてしまいます。入社4年目、昭  
和50年代初頭の出来事でした。身の  
振り方をどうしたものか、と案じて  
いた私の元へ、かつての大口取引先  
の1社で、リゾートマンション開発な  
でジョイントを組ませていただいで  
いた総合商社から声がかかります。  
岐阜 荘川高原(当時の大野郡荘川村、  
現在の高山市荘川町)に開発した分  
譲リゾートマンションが、不況の影響  
もあって捌けない。あなたが買い取っ  
て、何とか活用してもらえないだろ  
うか…。そんなご提案でした。

学生時代から、外車セールスのア  
ルバイトでトップセールス並みの成

績をあげたり、また夏休み期間中に  
は伊豆諸島・式根島でゴーゴークラ  
ブを主宰したりと、そもそもが、商  
売つ気のあることに惹かれがちな  
性格の私です。そんな血が騒ぎ出し  
たのか、俄然、総合商社さんからの  
話に乗り気になっていきます。資金  
の用立ても大変だろうから、支払い  
は10年ローンで構わない。その一言  
にも背中を押されて、買い取らせて  
いただくことになりました。

すぐさま頭に浮かんだのが、リ  
ゾートホテルとしての再活用でした。  
受け皿としての法人、(株)オハヨーサ  
ンを昭和53年に立ち上げ、私が代表  
取締役になりました。27歳になった  
ばかりでした。本社は諸事情もあつ  
て名古屋市内に置くことに。事業所  
所在地の荘川高原ではマンション仕  
立ての部屋に手を加えリゾートテイ  
ストにあふれたホテル客室空間に仕

立て直すなど、開業準備作業を大急  
ぎでとり進めました。そして同年中  
には、その名も『オハヨーサンホテル  
『ヴィラージュ 荘川高原』の開業へ  
と漕ぎつけます。

## 学校行事の取り込みに成功し、 経営も軌道に

開業1年目は大苦戦。予約が入ら  
ず、館内に閉古鳥が鳴くような日々  
が続きました。旅行代理店頼みで集  
客を図ったのですが、有名観光地で  
も温泉地でもない荘川高原を知るお  
客様は、当時まだほとんどいらつしや  
らない。高山市街と郡上八幡、白川  
郷を頂点に結んだ三角形の、ほぼ真  
ん中あたりに位置する荘川高原は、  
まるでエアポケットのように存在感  
が薄かったのかもしれない。悔しい  
思いをしたものです、あの頃は。

そこで、営業方針を思い切つて変

えることに。修学旅行やスポーツ合  
宿など、学校行事の取り込みに狙い  
を定めたのです。ちょうど、有名観光  
地型から体験学習型へと修学旅行の  
スタイルにも変化の兆しが。そうし  
た時代背景もあって、私どものホテル  
が生き延びていくためのヒントを授  
かったように感じたものでした。

夏場なら、緑につつまれた広い敷  
地内でジョギングやトレッキング、近  
くの川でラフティング、また学校単  
位での打ち上げ花火なども。春先で  
乗鞍岳にまだ残雪が残っている頃な  
ら、ダンボールとビニール袋で即席の  
ソリをこしらえ、滑って遊ぶのもよし。  
そして冬は冬で、仲間たちとスキー





三味の数日間。季節それぞれの荘川高原、ならびに周辺地での自然とのふれあい体験、楽しみ方体験を提案しながら、旅行代理店担当窓口に売り込みをかけて通いました。作戦は功を奏し、「学校行事なら荘川高原、オハヨーサンホテル」の評価が急速に定着していきます。地元中部地方一帯はもとより、近畿地方一帯、さらには遠く、中国地方や四国地方の学校からも、多くご利用いただけるようになっていきます。

学校行事需要は収益性の面でもメリットがあり、ホテル経営は安定軌道に。当初、10年を予定していた資金



返済が7年で済んでしまったのも幸運でした。

開業から二十数年経った平成11年、高速道路、東海北陸自動車道の荘川ICが開通し、当ホテルへのアクセスが格段に良くなります。集客面へも多大な恩恵がありました。経営はますます、堅調に推移していきます。

### 本格リゾートホテル 『龍リゾート&スパ』として 再出発

ところが開業から三十数年、平成20年代半ばを迎えた頃から、経営の足元が揺らぎ始めます。学校行事の受け入れはかつて、400〜500人単位で推移していたのですが、少子化の影響を受けて200〜300人単位へと減少傾向に。当然ながら稼働率も落ち、収益面にもダメージが。少子化の流れは先々も、ずっと続いていくでしょうから、経営環境はもともとと厳しくなっていくに違いありません。

路線の大転換に踏み切り、富裕層を中心ターゲットにした本格リゾートホテルとして、再出発を図っていくと決心します。その運営コンセプトとして立てたのが、温泉、食事、ホ



テル空間環境と周辺自然環境——の三つでした。

とりわけ大きな課題は、温泉でした。実は先立って、ホテル経営のきっかけをつくってくださった総合商社さんから、ホテル周辺の土地約28ヘクタール（東京ドーム6個分）をひとまとめに買い取っていました。この広さなら何カ所か、温泉の脈が存在しているもおおかしくないと考え、専門業者さんに調査を依頼したところ、ズバリ的中。平成24年から掘削を開始し、翌25年になって地下1300m地点で見事、掘り当てに成功。湯温、湯量、泉質の三拍子が揃った、この上もない贈り物を手にすることができたのです。

同年、施設設備の徹底した見直しを進めたうえで、高山龍神温泉「龍リゾート&スパ」の名を冠したスポットへと生まれ変わらせ、営業を開始します。

源泉100パーセント掛け流しの大浴場、露天風呂。金沢や名古屋の市場から直接、買い付けた魚介類など、こだわりの食材に丁寧な味つけをほどこした絶品料理の数々。そしてリゾートテイストにさらなる磨きかけた客室空間や、オープンエア

感覚を取り入れたホール、ロビー、テラスなどの共用空間。緑あふれる荘川高原の大自然のもと、心豊かなリゾートライフをお楽しみいただけるよう、ハード面はもとより、スタッフによるおもてなしサービスなど、ソフト面にも気を配ってお客様のご来館をお待ちするにしました。

マーケティングには、主にOTA（オンライン・トラベルエージェント）を活用。じわりじわりと注目度が高まり、着実に集客へ結びついていきます。また、リピートでお越しいただくお客様が何組も。大事にしなければと、改めて感じさせられたものです。

業態転換のごとき荒業が功を奏し、経営は再び、軌道に乗り始めたのですが、新型コロナ禍で状況が一変。客足が遠のく一方で、エレベーターへの非接触式ボタン操作システムの導入をはじめ、コロナ対策への投資がかさみ、経営圧迫の要因にも。しかし、かねてより無借金経営を心がけてきたからこそ、この苦しい時期も乗り越えることができました。

## 将来的には、 インバウンド客の取り込みも

コロナ禍が落ち着きを見せるに伴

い客足も戻り、ホッとしています。

今後の経営課題の一つとして考えているのが、インバウンド客の取り込みです。高山市街までお越しの方は多くいらつしゃいますが、ここ荘川高原まで足を延ばしてくださる方は減多にありません。ネックとなっているのが、車を使用するしかアクセス手段がないことでしょう。そこで期待しているのが、3〜4年後にも見込まれる自動運転レンタカーの登場です。右ハンドルに不慣れで、日本の道路事情に不案内な外国の皆さんにも安心して乗っていただだけ、行動半径もグンと広がっていただけます。

当ホテルを拠点に、日本の高原リゾートの素晴らしさをご堪能いただけたなら、宿泊業に携わる者として、またこの地に愛着を抱く者として、大きな喜びとなるでしょう。

当社オハヨーサンでは、広大な敷地内の高台を舞台に、スイートコテージ『リゾートヴィラ高山』（全38棟）の運営も手がけています。今回の取材では（誌面構成の都合上）残念ながら当事業について詳しく触れることは叶いませんでした。またの機会にお話しすることができればと思います。



### 金森英樹 かなもり ひでき

昭和25年、名古屋市生まれ。東京育ち。同47年、法政大学卒業と同時に名古屋へ戻り、不動産会社に就職。総合商社不動産部門とのジョイント業務などに従事。勤務先の業績不振、廃業を受けて独立へ。同53年、(株)オハヨーサン設立、代表取締役就任。岐阜高山・荘川高原にてリゾートホテル事業、スイートコテージ事業を営み成功に導く。著書『ゆとりの「財テク」』（実業之日本社）

**設立** 昭和53年  
**事業内容** リゾートホテル「龍リゾート&スパ」、  
 ならびにスイートコテージ  
 『リゾートヴィラ高山』の運営  
**所在地** [本社]〒460-0008  
 愛知県名古屋市中区栄3-27-7  
 [ホテル]〒501-5413  
 岐阜県高山市荘川町新淵892-11  
**電話** [本社]052-264-0843  
 [ホテル]05769-2-2611  
**URL** <https://www.ryuresort.jp>